

審議会等の会議結果報告書

課所名

環境課

会議名 令和4年度 第1回諏訪市環境審議会

開催日時 令和5年2月14日(火) 13時30分から15時まで

出席者

《委員》
牧野 透太委員、東 潤一委員、笠原 雅男委員、土田 勝義委員、宮原 裕一委員、
宮嶋 良太委員、宮坂 忠彦委員、河西 俊三委員、藤森 紀保委員、伊東 克幸委員、
小林 佐敏委員、中原 彩加委員、佐藤 よし江委員、大館 道彦委員、
赤羽 素乃委員代理、小泉 幸善委員
《諏訪市》
金子諏訪市長、金子市民環境部長、中澤環境課長、小松環境保全係長、
茅野環境保全係主査、八田環境保全係主事

(傍聴者1名※報道含む)

資料 次第、資料1、資料2-2~5、資料3

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会(進行:中澤環境保全係長)

2 市長挨拶(金子諏訪市長)

- ・環境審議会は、環境に関する市長の諮問機関。日頃から大変お世話になりありがとうございます。
- ・これから環境というテーマは、より一層重要なポジションになっていく。
- ・これまでもこの審議会では重要な内容を扱ってもらった。昨年は第三次諏訪市環境基本計画を策定するに当たり、原案となる基礎を作っていたいただいた。今年度からその計画に基づき課題に取り組んでいる。
- ・計画策定に合わせてゼロカーボンシティ宣言をした。環境への取組というのは、行政だけではなく、世界中、国、県、市民一人一人、事業者という様々な関係者が力を合わせて取り組まなければ効果を上げることはできない。その思いから、議会、団体、企業、県、学生という多くの関係者とともに宣言をした。
- ・今年度もマイボトル活動を推進することによりプラスチックごみやワンウェイ利用を削減しようとする給水スポットの設置や、再配達による二酸化炭素排出量を市民と共に削減する置き配バッグ活用実証実験等、環境課を中心に様々な取組を進めている。
- ・美しい環境は、地域住民のシビックプライドや訪れた方の満足度にもつながる。
- ・令和5年度からは市の組織にゼロカーボンシティ推進室が設置されることになる。段階的に取組を進めていくが、そうした意欲も感じ取っていただきたい。
- ・皆様にはそれぞれの立場から忌憚のないご意見をお寄せいただき、一緒になってこのまちを良くするという思いでご協力を賜りたい。本日はよろしくお願いたします。

3 自己紹介

4 会長・副会長選出

※全会一致で会長に宮原様、副会長に佐藤様を選出。

5 説明事項（進行：宮原会長）

（1）環境基本計画及び環境審議会について **資料1**

※事務局から資料1及びスクリーンに投影した補足資料を基に、環境基本計画の概要と環境審議会の任務について説明

【質問・意見等】

なし

6 報告事項

（1）令和4年度諏訪市環境推進会議の開催状況について **資料2-1**～**資料2-5**

①主要環境施策

※事務局から資料2-1、資料2-2及びスクリーン投影補足資料を基に令和4年度の主要環境施策実施状況及びそれに対する環境推進会議委員からの主な意見について報告

【質問・意見等】

なし

②第二次諏訪市環境基本計画の進行状況の総合的評価

※事務局から資料2-1、資料2-3及びスクリーン投影補足資料を基に第二次諏訪市環境基本計画の進行状況の振り返り及びそれに対する環境推進会議委員からの主な意見について報告

【質問・意見等】

○個別目標のレーダーチャートを見ると、地球にやさしく生活しよう、災害に強いまちづくりはソフト面よりハード面をしっかりとしなくてはいけない分野。しかしながらポイントは2.5とスコアの半分位。課題ではあり、頑張らなくてはならないと感じた。

③諏訪市の二酸化炭素排出量の推移

※事務局から資料2-3、及びスクリーン投影補足資料を基に諏訪市の二酸化炭素排出量の実績について報告

【質問・意見等】

○家庭部門の排出量が基準年比較で25.6%増加という状況。全国的な傾向だから諏訪市もそれで当たり前になってしまうとそれで終わってしまう。何か示せるものを出さないといけない。

○どの家庭も電気料金の値上げによって負担が増えている。

○私自身平成17年に太陽光を使い始め、一昨年には蓄電池を導入した。今までありがたみを感じにくかったが、寒い中での停電時に効果を発揮した。太陽光発電は導入後10年が経過し、売電価格は下がってしまっている。また、蓄電設備がないと在宅している夜に使えない。蓄電池はこれらを解決できる。補助制度と合わせて安く導入できれば効果が大きい。

○環境課として今太陽光発電を導入している家庭が何割かというものを把握しているか。

→何件という正確な数値は把握できていないが、以前太陽光発電導入について補助をしていた。その補助により6,069KWhの太陽光発電が導入された実績がある。

→電気料の値上げは多くの家庭に影響がある。啓発という面で取り組むことで、家計にもこれ

だけ効果があるということを知ってもらうことが必要だと考えている。

→今年度から諏訪市では蓄電池導入に対する補助制度を設けている。売電価格が下がってしまうという中では、自家消費として使っていくという動きもある。

→令和5年度予算案の中に、V2Hシステムに対する補助という新たなメニューも含まれている。電動車と家との間で蓄電した再エネを融通し合えるシステム。移動手段の脱炭素化とともに、停電時、災害時の利用という面での効果もある。

○太陽光の発電について意見が出たが、農業の立場から意見を述べると、農地を雑種地にして太陽光を導入するというものは、ここ2年ほどは売電価格の下落から少ない。

○一方、営農型太陽光発電の話は出てきている。営農型は田んぼや畑の一部にポールを設置して、その部分を一時転用し雑種地にすれば可能であり固定資産税を安くできる。最近も東京のほうから案件がきている。

○ゼロカーボンというのは再生可能エネルギー導入と共に、吸収することも必要。自分の土地で自分が太陽光パネルを導入し、その下で農業をやっていくというのはいいが、外部の法人が実施するとどうしても太陽光ありきの考えとなりやすい。また、一度導入するとやり直すことができない現状があると聞いている。県内でも約80件の営農型太陽光発電をやっているようだが、上手くいっているのは1~2割と聞く。

○この諏訪地域では諏訪市内で初めて営農型を行った例がある。その後茅野市や富士見町でも実施している。農業をいかに継続してやってもらえるかが課題。

○湖南地区に農業振興地域が広くあるが、そこにパネルが敷き詰められると景観の問題も出てくるのではと考えている。

○東京都のように、新築には太陽光発電導入義務化となれば、環境も破壊されないのではないかと。

○信州は山林も多い。その山林でどのように二酸化炭素を吸収するか、あるいは農業の作物で吸収させるかの視点でも取り組んでいただきたい。例として桐の木は成長も早く、売却も早く進むことから脚光を浴びている。ゼロカーボンシティ推進室ができるということだが、農林課とも連携して吸収面についても取り組んでいただきたい。

→ただ再エネを導入すればいいということではなくて、今ある産業との相乗効果を図る必要がある。また、諏訪市の再エネに関する条例には「調和」という言葉を使っている。自然環境と調和し、相乗効果を狙う必要がある。

→環境課、農林課共に環境だけでなくそれぞれの分野に対する効果を踏まえ情報共有していきたい。

④第三次諏訪市環境基本計画の進行管理

※事務局から資料2-5及びブスクリーン投影補足資料を基に第三次諏訪市環境基本計画の進行管理の考え方について報告

【質問・意見等】

○進捗管理の表について、計画が体系化されており、実行したことの評価がわかりやすく、見える化されている。

○より良くするために検討いただきたいこととして、実施した結果について記載するようになっているが、予定や案というものでいいが今後の見通しを書いてあると、推進会議委員の方も意見しやすくなると感じた。

→進行管理は振り返りで終わらず次につなげることが重要。いただいた意見を参考にさせてい

ただく。

(2) 第三次諏訪市環境基本計画（第二次諏訪市地球温暖化対策実行計画（区域施策編））の一部改訂について **資料3**

※事務局から資料3及びスクリーン投影補足資料を基に来年度予定している計画一部改訂内容について報告

【質問・意見等】

○現状の按分法に算出法調査の内容を反映させていくことは非常に良い取組だと思う。これまでの数値というのは統計的データからの算出であり、市の実態が把握できているのか疑問視されているところはあった。改善されていくことに期待する。

○市の計画の中での取組、その成果の反映についても検討、着目していただきたい。

→実態と離れていることは以前から問題視されていた。少しでも改善できればと思う。

7 その他

8 閉会